

成果の説明書

(氏名) 若林 隆久	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
(1) 研究	
<ul style="list-style-type: none">● ChatGPT を用いた AI コーチが実装された Reflect という振り返りの支援・共有ツールを教育・研修の場で活用しながら調査・研究を実施した (研究費 B・C)。株式会社リフレクトとの共同研究を進め、学会研究会発表、リフレクトユーザー会での事例報告、ラジオゼミナールや公開講演会で一般に向けた情報発信も行った。● プロジェクトリーダーとして『地域を変革するリーダーシップの展開：現代の地域リーダー像』の編集・執筆 (序章、第 1～8 章、終章) に携わった (研究成果 1)。● 自然実験と機械学習を用いたビデオゲームに関する研究 (研究費 F) で、<i>Nature Human Behaviour</i> 誌に論文が掲載された (研究成果 2)。また、2025 年 3 月 10 日の映像表現・芸術科学フォーラム 2025 では優秀発表賞 (口頭発表) を受賞した。さらに、プレスリリースや取材対応 (上毛新聞 9 月 8 日 19 面、他多数) を行った。	
① 主要な研究成果	
<ol style="list-style-type: none">1. 高崎経済大学地域科学研究所, 若林隆久 編 (2025) 『地域を変革するリーダーシップの展開：現代の地域リーダー像』日本経済評論社.2. Egami, Hiroyuki, Md. Shafiur Rahman, Tsuyoshi Yamamoto, Chihiro Egami & Takahisa Wakabayashi. (2024). Causal effect of video gaming on mental well-being in Japan 2020–2022, <i>Nature Human Behaviour</i>, 12, 13-29.	
② 研究費・共同研究	
(A) 令和 6 年度高崎経済大学研究奨励費「パーパス学習とデザイン思考の手法を活用した動機づけと成果を高めるアクティブ・ラーニングの教授設計—PBL やキャリア教育への適用—」(個人、新規)	
(B) 一般社団法人 日本経営協会 2023 年度経営科学研究奨励金「ChatGPT を活用した AI コーチによるチーム形成過程の解明および開発・実装」(個人、継続) https://www.noma.or.jp/keiei/tabid/258/Default.aspx	
(C) 公益財団法人日本生産性本部 2023 年度生産性研究助成「ChatGPT を活用した AI コーチを活用したチームのマネジメント—アクター・ネットワーク理論に基づくチームの一員としての AI の可能性—」(個人、新規)	
(D) 令和 4 年度地域科学研究所研究プロジェクト「地方都市における中小製造業の情報化に関する研究」(研究代表者：藤本哲、継続)。	
(E) 令和 6 年度地域科学研究所研究プロジェクト「群馬県における酒造業の史的展開と特性に関する研究」(研究代表者：八木橋慶一、新規)。	
(F) 公益財団法人 電気通信普及財団 研究調査助成「ビデオゲームがメンタルヘルスに与える影響の解明：自然実験と機械学習を用いて」(研究代表者：江上弘幸、継続)	
(2) 教育	
① 講義	
今年度新たに導入された LMS の WebClass を活用し、前期には「経営学」と「キャリアデザイン論」、後期には「経営分析」の講義を担当した。このうち「経営学」と「経営分析」の授業ではゲストスピーカーをお招きした。また、「地域政策を考える」の担当回で講義を行った。多摩美術大学生産デザイン学科の「テキスタイルデザインマネージメント」(藤原大教授)の授業において、1回のゲスト講義を行った(7月10日)。	
② 演習	
基礎演習および演習 I・II では、リーダーシップ教育、コーチング、などを導入し、AI コーチが実装された Reflect というツールも活用してゼミを行った。課外活動とし	

て、イギリス・ロンドンにおける海外フィールドワーク（8月15～19日）、群馬の地酒動画コンテストへの2グループ参加（優秀賞）、三扇祭への模擬店出店（模擬店総選挙1位、前年2位）、オープンキャンパスでのゼミ展示（7月14日、8月4日）を行った。後期の2・3年生合同のゼミでは、Wayfinder (<https://www.withwayfinder.com/>) というスタンフォード大学 d.school 発のパーパス学習プログラムを日本の大学では初めて導入・実施した（研究費 A）。3年生は全員が S カレ (<https://s-colle.ws.hosei.ac.jp/backnumber/s-colle2024/>) に参加し、4チーム12名が福岡大学で最終発表を行った。4年生11名が地域政策学会学生懸賞論文に応募し、1名が最優秀論文賞、2名が奨励論文賞を受賞した (<http://www1.tcue.ac.jp/home1/c-gakkai/gakusei.html>)。

(3) 社会における活動

- (ア) 令和6・7年度 公認会計士試験 試験委員（科目「経営学」）
- (イ) 一般社団法人経営研究所「人材開発と組織」研究会 コーディネータ
- (ウ) 日本生産性本部・経営アカデミー「組織変革とリーダーシップコース」講師、および、「リーダーシップ開発」「リフレクションノート相互コメント」の講義を担当
- (エ) ラジオ高崎ラジオゼミナールへの出演（10月18・25日）
- (オ) 地域政策学会第2回学術文化講演会の講師招聘（10月21日、信岡良亮氏）
- (カ) 第34回「組織におけるキャリアとワークスタイル」研究会開催（9月30日）

2 その他の事項

- 高崎経済大学 地域科学研究所 編集委員長・運営委員や競争的資金等不正防止推進委員会委員をはじめとした学内業務を行った。
- ゼミでの導入に合わせ、活育財団に学内での「Wayfinder を使った教育プログラムを実施する教職員向けの研修」を実施してもらった（参加者20名）。
- Gunma Innovation Award と起業について取材を受けた（上毛新聞8月29日12面）。
- 日本アクションラーニング協会よりシニア AL コーチとして認定を受けた。
- 研究費 E の一環として日本酒ナビゲーターとして認定を受けた（3月18日）。
- 研究・教育の一環として、ファシリテーションスキル研修「中級」（一般財団法人活育財団）、チェンジ・エージェント・アカデミー（有限会社チェンジ・エージェント）、T グループ（南山大学人間関係研究センター）、ティーチング・ポートフォリオ完成 WS、アカデミック・ポートフォリオ作成 WS、新任教職員研修プログラムの構築の仕方に関するセミナー（芝浦工業大学教育イノベーション推進センター）、などの各種講座を受講・修了した。

3 次年度以降の計画・抱負

研究面では、①Reflect および AI コーチに関する研究および教育実践を進め研究成果を出していく。②来年度開始予定の地域科学研究所研究プロジェクト「地域に位置する大学における教育実践と将来像」を研究代表者として遂行する。③自然実験と機械学習を用いたビデオゲームに関する研究を継続し、さらなる研究成果を上げる。

教育面では、インストラクショナル・デザインの知見と LMS である WebClass などのツールを活用し、より効果的・効率的・魅力的な講義・ゼミの確立・改善に継続的に取り組む。ゼミでは、①Wayfinder を次年度前期まで実施し完了させる。②S カレおよび卒業論文の取り組みでより高い成果を目指す。③AI コーチ、コーチング、アクションラーニング、デザイン思考などの要素を洗練・充実させる。④再履修クラスを実施する。また、長年携わっている経営アカデミー 組織変革リーダーシップコースにおいても、Reflect や非同期学習を活用しながら、さらなる成果向上と教育改善に取り組む。

さらに、自身のポートフォリオを作成することも含めて、自身の研究成果・教育実践・社会貢献活動などについての情報発信を積極的に行っていく。